

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	1年
講義日	令和 7 年 2 月 12 日(木)		
テーマ	現代日本社会における外国人との共生にかかる実情と問題点		
講 師	関西学院大学 人間福祉学部教授 武田丈		
講義内容 1. ねらい 多様化・増加する日本在住の外国にルーツを持つ人たちとの多文化共生の実情と課題を理解したうえで、多文化共生社会の実現に必要なことについて議論する。 2. 主な内容 (1)在留外国人数 日本で生活する外国にルーツのある人たちを、国籍別、在留格別等で理解する。 (2)日本で生活する外国にルーツのある人たちがぶつかる3つの壁 言葉の壁、制度の壁、こころの壁を理解する。 (3)日本の多文化共生施策 総務省、文科省、文化庁などの施策を理解する。 (4)マクロアグレッション 意図しない偏見や差別をしないために気をつけるべきこと理解する。			
講師からのメッセージ 日本社会の中で多様化・増加する外国にルーツを持つ人たちとの多文化共生の実情と課題を学んでいただいたうえで、日本が本当の多文化共生社会となるためには何が必要かを一緒に考えることができればと思います。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	1 年
講義日	令和 7 年 11 月 13 日(木)		
テーマ	美術文化に見る国際交流		
講 師	大阪教育大学美術教育講座 名誉教授 田中 久和		
講義内容			
現在、大阪市で大阪・関西万国博覧会が開催されています。これを記念して、この春、関西を代表する美術館(博物館)で日本の国宝を紹介する特別展が開催されました。奈良国立博物館の「超国宝展」と京都国立博物館の「美のるつぼ展」そして大阪市立美術館の「日本国宝展」の3件です。 万博を訪れる国内外の観客に、日本に伝わる貴重な国宝を鑑賞してもらう企画展でしたが、どこの会場も大変な盛況でした。 授業では、今回の国宝展で注目された展示を紹介しながら「美術文化に見る国際交流」をめぐる問題について考えてみたいと思います。			
講師からのメッセージ			
日本文化を代表する美術作品を図版で紹介しますので、作品を鑑賞しながら、具体的にテーマへアプローチしてくださることを期待しています。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	専攻	対象学年	1 年
講義日	令和 7 年 6 月 20 日(金)			
テーマ	在日ベトナム人の現在一近畿・東海地方の事例を中心に			
講 師	武庫川女子大学文学部 講師 林貴哉			
講義内容 本講義では、まず、在日ベトナム国籍者数の在留資格別の変遷や地域差を確認する。次に、近畿地方と東海地方において、ベトナム人コミュニティを対象としたフィールドワークを進めていったプロセスを紹介する。 近畿地方の事例として、1980 年代以降、兵庫県神戸市においていかにベトナム人コミュニティが形成され、1995 年の阪神・淡路以降、多文化共生のまちづくりがどのように取り組まれてきたのかを示す。 東海地方の事例としては、愛知県稲沢市に位置するベトナム仏教寺院に焦点を当て、その寺院が設立されるまでの過程と、行事の一例を紹介し、ベトナム仏教寺院が果たす役割について考察する。 最後に、近畿地方と東海地方の事例を比較し、他の地域においても在日ベトナム人の現在を捉えるための手がかりを検討する。				
講師からのメッセージ 本講義では調査結果だけでなく、どのようにフィールドワークを行ったのかというプロセスについても紹介します。みなさんも街に出て、多文化・多言語状況を観察してもらえたらと思います。新たな気づきや出会いのきっかけになれば幸いです。				

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	1 年
講義日	令和 7 年 6 月 5 日(木)		
テーマ	イスラームの基礎知識、現代中東の諸問題		
講 師	神戸大学大学院人文学研究科准教授 伊藤隆郎		
講義内容			
1. ねらい			
午前の講義のねらいは、グローバル化する国際社会を理解するためにも、国際交流・協力を進めるためにも不可欠なイスラームの基礎知識を身につけることであり、午後の講義のねらいは、20 世紀以来中東で生じた諸問題はの歴史的経緯を把握することである。			
2. 主な内容			
(1-1)イスラームの特徴			
他の宗教と比較して、イスラームの特徴を理解する。			
(1-2)信徒の生活			
イスラーム教徒の日常生活と代表的な宗教行事を理解する。			
(2-1)19 世紀の中東			
第一次世界大戦前夜の中東について理解する。			
(2-2)第一次世界大戦とその後			
現代中東の諸問題の起原を理解する。			
(2-3)1970 年代以降の中東			
1970 年代以降の中東情勢の展開を理解する。			
講師からのメッセージ			
午前の講義では、イスラームはどのような宗教なのか、イスラーム教徒はどのような人たちなのかについて基本的なことをお話します。			
午後の講義では、現代中東の諸問題の歴史的背景についてお話しし、いまでも中東各地で紛争が絶えないのはなぜなのか、一緒に考えてみたいと思います。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際協力・交流コース	専攻	学年	1年
講義日	令和 7 年 5月 16 日(金)			
テーマ	PHD 協会の活動 ～生きることは分かち合い、弱き者と～			
講 師	公益財団法人 PHD 協会 事務局長 坂西卓郎			
講義内容				
1. ねらい 神戸の国際協力 NGO である PHD 協会の活動を通じて、国際協力・多文化共生への理解を深める 2. 主な内容 午前:PHD 協会の活動紹介及び SDGs導入、じゃんけんワークショップを通じて国際協力への理解を深める。時間があれば国内での難民、避難民、困窮外国人支援について紹介する。 午後:PHD 協会2025 年度研修生としてミャンマーの方に日本語で出身地域の状況や日本での研修目的などを報告してもらう。ネパールの研修生は聴覚障害なので日本手話での講演を行う。各研修生のテーマは以下の通りである。 ミャンマーからの研修生:孤児院、僧院学校の先生。ミャンマーでは現在、内戦のために孤児や生活困窮世帯が増えている。それらの子ども達の教育に取り組む先生なので、日本では教育を軸に学ぶ。 ネパールからの研修生:初めてとなる聴覚障害の研修生、男女各1名。国際協力の今後のテーマとして国内の格差問題がある。ネパールで取り残されている聴覚障害の方を招き、日本で障害者福祉、IT、柔道、洋裁などを学ぶ。				
講師からのメッセージ				
例年、国際友の会の皆さんには上記研修生への日本語教育でお世話になっています。当日は研修生達がお世話になった日本語で発表させていただきます。ネパールからの聴覚障害がある研修生は日本手話からの通訳となりますが、ぜひ研修生達の声を聴いてもらえたらと思います。				

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	1年
講義日	令和 7 年 4 月 25 日(金)		
テーマ	韓国社会と文化の理解		
講 師	神戸女学院大学・非常勤講師 金 泰賢(キム テヒョン)		
講義内容			
第1部 韓国社会の全般について 韓国は、1950～60 年代には世界でもっとも貧しい国の一つでしたが、最近では世界 10 位前後の経済規模(GDP 基準)を持つ国にまで成長しました。ところがこのような経済の高度成長の裏には激しい競争や貧富の格差など様々な社会問題を残してきました。この授業では韓国社会全般の変化の過程や現状、問題点などについて幅広く紹介します。 第2部 韓国の食文化について 大型スーパーに置いてある色んな種類のキムチや韓国のお酒、外国の加工食品を扱っている店に必ずおいてある韓国のインスタントラーメンやレトルトのサムゲタン(参鶏湯)、テレビのショッピングにたびたび登場する韓国風調味料、韓国の食べ物だけを扱う専門のスーパーなど、韓国発の「食」はすでに身近な存在となっています。一度食べたことのある、もしくは、聞いたり見たことのある韓国の「食」について紹介します。			
講師からのメッセージ			
韓国からやってきた友人から韓国のことを聞くような雰囲気 of 授業ができたらうれしいです。よろしくお願いします。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力 コース	対象学年	1 年
講義日	令和 7 年 4 月 10 日(木)		
テーマ	文化人類学と異文化理解—オセアニアを中心として		
講 師	吉岡政徳		
講義内容			
本講義は、以下の内容で進めます。			
1 文化と自文化中心主義			
私たちは、無意識のうちに自分が生まれ育ったところの文化的フィルターを通して、異文化を見てしまいます。こうした色眼鏡を通して異文化を見てしまうことを、自文化中心主義と呼びます。ここでは、こうした「偏見」が生まれる背景を考えていきます。			
2 進化主義と文化相対主義			
進化主義は、「すべての社会は未開から文明へと進化していく」という視点に基づいた考え方なのですが、この考え方は、「どの文化も、それ自身の論理で考えられねばならない」という視点を持った文化相対主義によって批判されたました。ここでは、こうした考え方の変遷についてみていきます。			
3 オセアニアとは			
私がフィールド・ワークでしばしば訪れるオセアニアというのはどういうところか、そこで生活している人々はどんな暮らしをしているのか、などを概説します。			
4 「辺境としてのオセアニア」イメージ			
オセアニアは常に辺境のイメージで語られてきました。ここでは、こうしたイメージを創り出す色眼鏡の「仕組み」を考えます。			
5 「秘境・異文化の伝統は奇妙な風習」という思い込み			
一見、奇妙な風習にみえる秘境や異文化の「風習」をとりあげ、何が奇妙と思えるのか、それは我々の思考とどう違うのかということを考えようと思います。			
講師からのメッセージ			
質問があったら、私の話を中断してもかまいませんので、その場で手を挙げてください。質問への回答を先にしてから、話を続けます。			